

第3学年〇組 算数科学習指導案

日 時：令和5年9月〇日（〇）〇校時
 指導者：〇〇 〇〇 （場所：3年〇組教室）

1 授業について

単 元 名	わり算を考えよう
単元の目標	わり切れない場合の除法や余りについて理解し、計算することができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して、除法の意味や計算の仕方を具体物や図、式を用いて表す力を養うとともに、問題場面における数量の関係に着目し、数学的に処理した過程を振り返り、今後の学習や生活に活用しようとする態度を養う。
本時の目標	余りのとらえ方について理解を深める。
児童の実態	学習への意欲が高く、自分の考えを話し合ったり、発表したりすることに意欲的な児童が多い。一方で、集中が続かない児童や、一斉指示を聞くことが難しい児童、理解が難しい児童もおり、個別の指導が必要な状況である。 また、余りのないわり算の学習において、ほとんどの児童が計算には躓きは見られないものの、等分除、包含除の分け方の違いを理解していない児童も数名いる。そのため、等分除と包含除を比較する活動を設定したり、場面を表した図を基に考えたりして除法の理解を深めていく必要がある。
本時の授業づくりの主な視点	<p>視点1 児童が主体的に学習に取り組むための工夫 学習課題の設定：児童のつぶやきや問いから「めあて」を設定する。 解決の見通しをもつ：答えの見当を付けることで、学習意欲を高め、粘り強く取り組むことができるようにする。</p> <p>視点2 ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図・文などで自分の考えを表す。 ・問題文に色分けをしたアンダーラインを引き、視覚的に分かりやすくする。（視覚化） ・トリオで考えを説明し合う活動を取り入れ、学び合いの場を設定する。（共有化） <p>〈配慮を要する児童と手立て〉 ◇児：算数の学習では、一斉指導での理解が難しく、個別の声掛けが必要である。また、計算に躓きがあるため、思考の手助けとなる既習事項を確認できるよう提示する。本時では、計算で求めた結果を問題場面と照らし合わせて考えることが難しいことが予想されるため、自力解決の際に、問題場面の絵を用いたり、半具体物を用いて考えたりすることで、場面に即した答えを見つけることができるようにする。</p>

2 授業の流れ

段階・時間	活動内容 ◎主な発問・指示	・子どもの反応例 (○)	留意点 (・) 手立て (◎) 評価 (※)
導入 7分	1 問題に出会う。		◎分かっていること、求めることにアンダーラインを引き、視覚的に分かりやすくする。 ◎式の答えに5「箱」と3「こ」と板書することで、箱は5箱できてケーキは3こ余ることを確認する。 (◇児) (視覚化) ・式の答え(5あまり3)が問題の答えであるか確認することで、課題に気付かせる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> ケーキが23こあります。1箱に4このケーキを入れていきます。全部のケーキを入れるには、箱は何箱あればよいのでしょうか。 </div> ◎式はどうなるでしょう。 ◎答えは5あまり3ですか。	○ $23 \div 4 = 5$ あまり3 ○箱の数を求めるから、5あまり3ではないかな。 ○あまりの3こはどうしたらいいのかな。	

展開	28分	2 本時のめあてを知る。 ㊦あまりに注目して、問題の答えを考えよう。	○文章で考える。 ○ドット図で考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・答えを考えるには、あまりに注目するとよいことを確認する。 ・解決の見通しをもたせることで、全員が自分の考えをもつことができるようにする。 ◎計算の答えの数がドット図のどこに対応しているかを考えさせ、数の意味を捉えやすくする。(◇児) ◎問題場面の絵を確認し、1箱分全体で作図をすることで、図に表しやすいようにする。(◇児) <ul style="list-style-type: none"> ・トリオでホワイトボードに考えを書かせることで、意見を共有できるようにする。 ※商やあまりの意味に着目し、問題に応じた商の処理の仕方を考え、説明している。【思・判・表】
		◎どのようにすれば解けそうですか。 3 自力解決をする。 ◎図にかきこんだり、文章で書いたりして考えましょう。 4 トリオで自分の考えを説明し合う。 5 全体解決をする。 6 問題に出会う。 タイヤを4こ使って、おもちゃの車を作ります。タイヤは30こあります。車は何台作れますか。 ◎式はどうなるでしょう。 7 自力解決をする。 8 全体解決をする。		
終末	10分	9 本時のまとめをする。 問題によって、あまりの分も考えて1をたすときもあるが、たさないときもある。 10 適用問題に取り組む。 ◎スキル㉔に取り組みましょう。 11 本時の振り返りをする。	○あまりの数をどうするかで答えは変わるね。	◎児童にとって分かりやすい言葉でまとめることを意識する。また、できるだけ児童の言葉でまとめる。 ※計算した結果を吟味したことを振り返り、今後の学習に生かそうとしている。【態度】

3 板書計画

問 2.81
 ケーキが23こあります。1箱に4このケーキを入れていきます。全部のケーキを入れるには箱は何箱あればよいでしょうか。
 (式) $23 \div 4 = 5$ 箱あまり3こ
 課 あまりに注目して、問題の答えを考えよう。
 見 ○ドット図で考える。
 ○文章で考える。
 自友 (答え) 6箱
 (答え) 6箱
 (答え) 5箱
 (答え) 6箱
 問 タイヤを4こ使って、おもちゃの箱を作ります。タイヤは30こあります。車は何台作れますか。
 課 (式) $30 \div 4 = 7$ あまり3
 (答え) 7台
 見 問題によ、てあまりの分を考えて1をたすときもあるが、1をたさないときもある。